

こんにちは！

「おしゃれに自由に働きたい♡」

そんな女性のための「脳科学」と「Webマーケティング」

をお伝えしている

兵藤 さや と申します ^^

このレポートでは、

私が毎日家でまったり働きながら、

「仕事と趣味の境界線がない」

「家庭も仕事も、毎日がワクワクに溢れている」

というハッピーの極みのような生き方ができるようになったこと。

一方、それに至るまで、

友だち付き合いが苦手なコミュ障オタクで、

プライドだけが高い

「偽りの自信」の塊だった

という話を記したいと思います。

では、ここから始まりです。

2019年現在、私は夫と1歳の娘と3人で暮らしています。

間もなく2人目の娘が産まれる予定です ^^

私は会社員でも、専業主婦でもありません。

自宅やカフェや海外など、

好きな場所で好きなことだけして働きながら、

最愛の夫と娘と

大好きな仲間に囲まれ、

会社員のときと同じくらい、  
時によってはそれより多めの収入を得ています。

私は27歳の時、自分で事業を始めました。

当時の私は、  
産休を目前に控えた妊娠中のOLでした。

自由におしゃれに女性らしく働きたい。

まるで映画や海外ドラマの世界のように  
キラキラ輝く人生を生きたい。

通勤の満員電車で揺られながら、  
素敵な起業家さんの本や自己啓発本を読み

本の向こうの世界を、夢見ていました。

そんな私は幼い頃から  
自分はブサイクで足も太い・・・という  
外見コンプレックスがありました。

さらに、小学生の頃からオタク気質のネガティブ女子で、コミュ障。

そのくせプライドは高くて、  
いつも虚勢を張っていました。

その結果、

大切な友人関係を自ら壊してしまったり、  
会社に恩を仇で返すようなことになってしまったりして、

全てを失ったような気持ちになった時もあります。

最初にお伝えしたいこととして・・・

私たち人間は、

自分の【脳】を上手に使うって

自分で自分を愛して、  
結果や収入にとらわれず、どんな自分にも花マルを出し、

【自分に絶対的な自信を持つ】

強固な自分軸がないと  
すべてが上手くいかない

可能性が高いです。

ポイントは

「結果や収入にとらわれず」自信を持つ

ですよ^^

自信がないから、着飾り、去勢を張る。

必死に勉強したり、  
収入をあげようと頑張ったり、  
資格を取ろうとする。

自分が毎日必死だから、  
プライドだけは高くなっていく。

相手を許すことが出来ない。

「私はこんなにやっているのに」  
「私はこんなに頑張っているんだから」

と。

そう、

結果を出さないと、  
お金を稼がないと・・・と

必死に何かをプラスしていくのは

「偽りの自信」

です。

「自信がない」というベースがあるから、必死になるのです。

これが、全ての夢を阻害します。

過去の私はまさに「偽りの自信」の塊でした。

プライドが高すぎて、

友人関係を壊したこともあるし、  
仕事だって上手くいかずに、結局精神科通いになりました。

それを私の生々しい経験とともに記していきます。

私は1990年の冬に生まれました。

出身地は大阪。

父は全国転勤がある大手企業に勤めるサラリーマンで、  
4年おきくらいに、  
大阪、千葉、静岡、北海道、東京・・・と全国を転々と移り住みました。

転勤族だったので、母は専業主婦。  
私が中学生くらいになったころから、パートをしていました。

4歳下にマイペースな弟がいます。

私が小学生のころは、  
世代的に「モーニング娘。」全盛期。

幼い頃からアイドルや芸能への憧れが強く、  
よくアイドルごっこをしていました。

このときの名残で、  
今でも辻希美ちゃんが憧れのママの1人です。

実際に、同世代のメンバーが  
モー娘。に加入するのをテレビで見ながら

私もオーディションを受けてみたい。

あるいは

「天才てれびくん」に出演する  
「てれび戦士」になりたい。

そう憧れを抱いて、

よく新聞にのっている子役事務所の広告や、

オーディション番組を  
ぽつんと画面の向こうでみていました。

とはいえ、

地方在住で、当時の私にとって、  
芸能人なんて別世界の存在。

「やってみたい」と  
大きな声を上げることも出来ず、

突然街でスカウトされるといった  
夢のような出来事も起こらず

次第に、

「私は可愛くないから、芸能人になるなんて無理なんだ」

と、自分で自分を納得させて生きていくことになります。

ここで形成された

「私は可愛くない」 = 「ブサイク」

というセルフイメージは、

20代後半になるまで、  
非常に根深く、私の人生に関わることになるのです。

オーディションに挑戦することも無く  
淡々と日々が過ぎていく中、

小学校5年生のときに、  
自宅にパソコンがやってきました。

父の仕事で使うために買ったものです。

「私はブスだから、芸能人になるのは無理そうだ」

と勝手に諦めて、  
芸能の世界に入れなかった私は、

インターネットの世界で、  
自己表現をすることに幸せを感じるようになります。

小学校5年生のある日から、  
自分の絵や小説作品を、ネットで公開し始めたのです。

私は幼稚園児のころから  
絵を描くことが大好きでしたが、

パソコンに出会ってから、  
クリエイター気質が加速しました。

ちなみに当時は、  
「ONE PIECE」のアラバスタ編にハマっていて、  
自分でワンピースのファンサイトを作ったりもしました。

小中学生の女子向けで、流行していたサイト  
「ふみコミュニティ」などにも居座っていました。

ここからズブズブと「オタクの沼」へと沈み、  
リアル中二病をこじらせているような、  
中学生へと成長していくこととなります。

私も今は、可愛い娘を持つ母ですが、  
もしこの話を親の立場の人で見ている人がいるならば、

強く言いたいのは、

ぜひ女の子には

「○○ちゃんは本当に可愛いね！」

と心からの愛をもって、  
声をかけてあげて欲しいと思います。

男の子にもぜひ

「○○くんならなんだってできるよ！天才だから！」

と勇気づけてあげてほしい。

私は両親のことが大好きですし、  
今でも関係は非常に良好ですが、

幼稚園～小学生の私は、  
思い込みが激しい子供だったので

たまたま誰からも

「さやちゃんは可愛いね。芸能人にだって、アイドルにだってなれるよ！」

と言ってもらえなかったことが、

「私はブスだから仕方ない」

という、卑屈な自己形成に繋がりました。

別に、

「あなたはブスね」

と言われたわけではないのに、

テレビで、モー娘。が輝いているのを観る度に、  
自分で自分にブスだというレッテルを張り続けました。

子どもは親が大好きだから、

「芸能人になりたいなんて言って、ママに心配かけたくない」

「失敗したら恥ずかしい。がっかりされたくない」

そう思って、

無意識レベルで、言いたいことが言えない子どもになるのです。

私は、別にダメと言われたわけでもないのに

「芸能人になりたい、挑戦してみたい」

と、大きな声では言えませんでした。

だから、

少なくとも私の娘には、

芸能の世界に限らず、なにか夢を持った時

私のように、

自分の本当の気持ちを無視して、

言い訳だらけで、

夢も希望も持てない人生を歩むことになってほしくないなと思います。

話を私の子どものころに戻します。

私が最初に入学した中学校は  
県内トップレベルのヤンキー公立中学でした。

周りは金髪ピアスだったり、  
当時流行りのルーズソックスでギャル風。

卒業式では、漢字だらけの刺繍の  
特攻服みたいなのを着ている先輩もいました・・・。

中学生なのに・・・。

一方の私は

小学校高学年から、  
順調に「オタク街道」を歩み始めていたので、

ヤンキーにはならず、

むしろヤンキーの同級生にビビりながら、  
真面目に勉強と部活に励んでいました。

その当時

「ハリー・ポッター」が流行していました。

私は、ハリー役のダニエル・ラドクリフや、  
ハーマイオニー役のエマ・ワトソンとほぼ同世代なのですが、

世界には同世代であんなに活躍している映画スターがいるのに・・・と

また遠い世界で輝くスターに  
やっぱり心の底で憧れていました。

芸能界への憧れはうっすらと持ったまま、  
中学では吹奏楽部に入部。

楽器はテナーサクスを吹いていました。

強豪部で、朝練もあり、  
室内で筋トレしたり廊下を雑巾がけしたり、ほとんど運動部。

おかげで実力は伸び、県選抜の楽団にも所属しました。

私はハリウッドスターにはなれずとも、  
舞台上で演奏をすることはとても楽しかったです。

なお、中学では周りがヤンキーだらけだったので、  
私の成績はオール5でした。

学校で勉強と部活に励み、  
家ではネットサーフィンやオタク創作活動にハマるという  
絵に描いたような真面目なオタク中学生。

一見、順風満帆な青春のようにみえますが、  
ヤンキー中学校では、イジメも日常茶飯事。

靴に画鋲という典型的なイジメから、  
廊下に墨汁や牛乳を撒いたりする、  
今思えば意味不明な非行、

授業中は先生イジメすら横行していました。

私も行きたくもないゲーセンで  
友人の夜遊びに付き合わされ、

付き合わないとイジメられるというような、  
苦しい友人関係を保っていました。

見た目が地味だったので、  
ギャル風の友人からバカにされ、

ここでもまた

「私はブスだから・・・」

という外見コンプレックスが強まります。

その後、中学3年になるときに、  
親の転勤に伴い転校し、  
幸いにもヤンキー中学とはサヨナラすることが出来ました。

転校先の中学校は、打って変わって、  
めちゃくちゃ真面目な生徒ばかり。

公立ながら、地域でも有名なエリート中学でした。

中3の転校後から塾に通い始め、  
ヤンキー中学に在籍していたときとは違って  
伸び伸び勉強できるようになり、

高校受験も無事成功。

都道府県でトップの公立高校に進学しました。

ただしこの頃、  
突然転校してきた私が、  
良い成績を収めまくっていたので、

転校先のクラスメイトから僻まれました。

「さやちゃんは○○高校に行くんでしょ？いいよね～」

スルーすればいいものの、

自分に自信がないので、  
こういう僻みにいちいち傷つき、

やっぱり友人関係にコンプレックスが強まります。

高校では、中学の頃から好きだった「舞台」が踏める、  
吹奏楽部に続けて入りました。

ところが、  
自身が吹奏楽の強豪中学出身だったということもあり、

スキル差がある部内で  
上手く部員と歩み寄ることができません。

プライドが高い私は、  
そこで友人関係が上手く築けず、忍耐力なく自ら退部し、

二次元の世界に逃避行。

中学ではギャルからバカにされ、  
高校では部員と歩み寄れず自主退部、

この時点で、  
私の友人関係に対するコンプレックスはピークに達します。

そんな私にとって、  
インターネットやオタクの世界は心地よかった。

ここからオタク街道を更に突き進みます。

まずはパソコンでオタクサイトを作っては、

二次創作イラストや  
小説を読んだり書いたりしていました。

ちなみに、当時ハマっていたのも少年ジャンプ系の漫画で、

- \* 「テニスの王子様」
- \* 「銀魂」
- \* 「家庭教師ヒットマンREBORN！」
- \* 「DEATH NOTE」

など。

あと大人になった今でも「名探偵コナン」が大好きです。

男女問わずの声優オタクでもあったので、  
「声優グランプリ」とか「声優アニメディア」とかの  
声優雑誌は毎月欠かさず読んでいましたね。

更にこの頃、インターネットで見つけた  
東京で活動するコスプレイヤーさんに憧れ、  
アニメや漫画のコスプレに目覚めます。

もともと芸能界に憧れ、  
舞台が大好きだった私にとって、

コスプレは最高の趣味になりました。

自分で衣装を作って、週末にコスプレイベントに出かけて撮影。  
コスプレの趣味は、のちに大学生になっても続きます。

コスプレはとても楽しかったのですが、

それでも満たされなかった私は、  
「芸能×アニメ」という大好きなジャンルの掛け合わせで、

高校卒業と同時に、  
「声優」になりたいと思います。

ただ、幼少期から形成されてきた

「私はブスだから」

というセルフイメージから  
声優一本で生きていくことに自信を持たず、

声優の専門学校に通うと同時に、  
「保険」と思って、東京の私立大学に進学します。

私の子供時代は、

「私はブスだから」

というセルフイメージ無しに語ることはできません。

私は自信がなかったために、

- ・夢に素直になれず
- ・可愛くない自分に自信を持つため、良い成績を取り
- ・成績が良いことだけに誇りを感じて
- ・結果、プライドがどんどん高くなり
- ・成績や楽器のスキルを鼻にかけて、友人から孤立し
- ・孤立しても「一匹狼キャラの私もいいよね」と無理やり肯定し
- ・でもどこかで夢を諦めきれない

という半端ないこじらせ女子になっていきました。

今思うと、本当に様々なものを失ってきました。

高校を卒業後、  
札幌から東京に引っ越しました。

早稲田大学 政治経済学部に入學。

友人に僻まれながらも、  
なんとか好成績だけをキープした結果、

世間一般からみれば  
恐らく高学歴切符をゲットしましたが、

残念ながら、大学で勉學に励むことは皆無で、

高校までに深めたオタク街道を  
更に突き進む女子大学生になりました。

大学1年目は、  
声優の専門学校とダブルスクールをしながら、

コミケやらコスプレイベントやらでオタク活動に励みます。

ですが、声優の道は、結構早いうちに諦めました。

堀江由衣さん、田村ゆかりさん、平野綾さん（「涼宮ハルヒの憂鬱」全盛期）など、

可愛いアイドル声優さんになるのが夢だったのですが、  
厳しい芸能の世界に速攻で挫折します。

声優といえど、

若い女性はルックスが超重要です。

ここでまた

「私はブスだからな」

と思いました。

そんなアニメ界にどっぷりな大学1年生を終えた頃、

【あまりにも大学に友だちが居ない】

という事実に危機感を覚えます。

大学の外でコスプレや、  
コスプレ資金を稼ぐためのバイトに励みすぎていました。

大学生になっても、またやってきました、  
友だちコンプレックスです。

大学のテスト前に、みんなは仲良くノートをコピーし合ったり、  
勉強会を開いているのに、

私は一緒にやる友だちがいない。

大学に友だちがいないので、学校に居場所がない。

単純に寂しかったのもありますし、

「このままじゃ就活やばそう・・・面接でオタ活のことしか話せない・・・」

という下心MAXな理由で、  
大学2年生から遅れてサークルに加入。

幼い頃から舞台が好きなことは変わらず、  
大学ではダンスを始めました。

サークルのおかげで軽く脱オタして、  
一見すると人並みのリア充大学生になりました。

余談ですが、

この頃始めたダンスは、  
アラサーになった今でも趣味としてずっと続けていて、10年選手です。

今の私にとって  
チームメイトと身体を動かす趣味は、  
人生の大切なライフワークです。

大学4年生のときには、  
これも懂れていた  
秋葉原のメイド喫茶でアルバイトをしました。

オタク文化が大好きでしたし、コスプレイヤーでもあったので、  
メイド喫茶のメイドさんは天職でした。

よく

「メイド喫茶って給料高いんでしょ？」

と聞かれますが、

むしろ可愛い制服で接客業をしたい子はたくさんいて、  
倍率が高いバイトなので、ふつーに時給1000円です。

メイド喫茶のアルバイトも、  
書類や面接で3件くらい落ちたので、

「私はブスだから受からないかも」

という言葉が呪いのように襲ってきましたが、

なんとか1件だけ採ってもらえて、  
夢のように楽しいメイドさん生活を送りました。

メイド喫茶のお客様や職場が大好きでしたし、

可愛くないはずの私が  
それまでの人生最高にちやほやしてもらえたし、

卒業する時には  
お花やケーキなどのプレゼントもたくさんいただきました。

本当に嬉しかったですし、

この経験が、  
後に再挑戦する芸能界への火種となったように思います。

そんな大学生生活を終え、社会人になりました。

根がコミュ障オタクで  
営業職は無理だと思ったので、

文系だったのに

Webベンチャー企業に、  
Webエンジニアとして就職します。

新卒で入ったベンチャー企業は、  
本当に優秀な仲間が多く、  
同期のエンジニアは理系大学院卒のメンズばかり。

ほぼ未経験で、文系大学卒、  
コミュ障だからという理由でエンジニアになった私は、

同期の中では圧倒的なまでに最下位の  
スーパー劣等生でした。

会社の仲間、先輩方に  
死ぬほど迷惑をかける日々が始まりました。

ダメ社員にも関わらず、  
あまりにも会社の仲間が良い方ばかりだったので、

期待に応えるべく、  
最下位劣等生ながらなんとか踏ん張り、  
仕事をしながらプログラミングを覚えました。

出来ない自分に優しくされるのは、非常に辛かったですね・・・。

おかげさまで、  
3年ちょっと経った頃には、ある程度のWebエンジニアにはなれました。

得意なプログラミング言語はRubyとPHPです。

なお、

入社時からずっと優秀なエンジニアの同期たちは、  
休日も趣味でプログラミングをしているような人ばかり。

私は会社の先輩方の期待に応えたくて、  
平日こそ頑張ってみました。

休日までプログラミングしたいと言われてもそうでもなく、

「仕事だから」

と割り切って頑張っていました。

世間ではそれが普通だと思っていましたが、

今思えば、

その同期たちが「仕事と趣味の境がない」人たちなんですよ。

さて。

実はその後、

私は会社員でありながら、  
夢だった芸能界で活動することができました。

デビューしたてだったアイドル

「乃木坂46」の舞台を見に行く機会があり、  
同世代アイドルのひたむきさに心を動かされ、一念発起。

もう社会人ということもあり、  
親に心配をかけたくないという思いも薄れ、

自らオーディションに挑戦したのです。

20歳を過ぎてからの芸能界入りはとても遅いのですが、  
人生このまま終わりたくない一念発起。

結果、

ライブやイベントを頻繁に行い、  
テレビに出演したり、ネット生放送にレギュラー出演したり、  
CDを発売したり・・・

毎日がほんとうに楽しかった。

周りのプロデューサーさん達も、  
こんな私にできたファンの方々のことも、

心から大好きでした。

会社員だった私にとって、  
20歳すぎからの芸能界という特殊な業界は新鮮で、  
学ぶことも沢山ありました。

ただし、一番の問題は  
体力的に限界だったということ。

当時は、

朝5時に起きてレッスンへ行き、  
9時に会社に出社、  
18時に退社して、  
19時すぎからライブなどのイベント、  
帰宅するのは深夜1時前。

あまりにも睡眠時間が短すぎて、

そんなコンディションで  
正社員の会社の仕事を全うできるはずもなく、  
十二指腸潰瘍ができました・・・。

そしてもう一つ。

芸能人とは、  
あくまで「商品」のような側面があるということ。

芸能人は、  
プロデューサーや事務所など、  
一緒にお仕事をする方の想いを背負って、舞台に立ちます。

そこで必ずしも、  
自分の意志だけを押し通せるとは限りません。

私はずっと「自己表現」が好きでした。

小学生の頃にモー娘。になりたかったのも、

吹奏楽部で舞台を踏むことも、

声優になりたかったのも、  
コスプレが好きだったのも、  
大学時代にメイド喫茶でアルバイトをしていたことも、  
全部自己表現への憧れでした。

ですが、芸能という世界は、  
必ずしも自分のやりたいことだけをやるわけではないということを、経験して初めて学びました。

それは勿論、一緒に歩んでくれた  
仲間やプロデューサーに感謝していたからこそ、  
わかったことでした。

結局、身体も壊し、  
芸能界か会社員かどちらを選ぶとなったとき、

「私はブスだから」

という呪いがベースにあったため、  
芸能一本で生きていけるとは到底思っておらず、

芸能活動を手放すことにしました。

その後は、  
魔法が解けたシンデレラのごとく、

ごく普通の会社員に戻りました。

社会人になって4年以上経った時、

転職後の会社で、

希望しない事業を担当することに・・・。

転職したてで、典型的なNOと言えない日本人だったので、  
責任を感じて頑張ってみるものの、  
やりたくない仕事で良いパフォーマンスができるはずもなく、  
人間関係も悪化。

社会人になっても出ました、  
人間関係=コミュ障コンプレックス。

ついに社会人5年目、  
心身ともに病んで会社を数ヶ月休職。  
平たくいうと、  
あと一歩でうつ病と精神科で診断されました。

当時は、  
朝になるのが怖くて、会社に行きたくないと夜に泣き叫び、  
通勤電車では体調不良になって、途中下車して会社に遅刻してました。  
完全にやばい人です。

会社がブラック企業だったわけでもないのに、  
希望しない仕事を担当して、  
人間関係をこじらせて鬱になるとか、

私の

人間関係コンプレックス

を強固たるものにするには、十分すぎる事件でした。

結局、私は

「自己表現」に限界がある

サラリーマンに向いてなかったんですね。

私はブサイクコンプレックスで  
芸能界に居続けられなかったのに、

やっぱり「自己表現」を諦めることができなかった。

あと一歩でうつ病という、  
仕事はさんざんな状況でしたが、

プライベートでは最高のパートナーと結婚することができました。

今の夫です。

結婚し、これからの明るい未来に想いを馳せた時、  
私はワクワクと「未来年表」を描きました。

「子どもは何人ほしいかな、家はどんなところに住みたいかな・・・」

そのとき初めて気づくのです。

「子ども2,3人を自由に大学進学させるとなると、共働き正社員でも家計厳しい」

という事実。

諸説ありますが、子どもが大学進学までにかかる費用は、  
オール私立の場合、子ども1人に7500万円です。

私の親は、ありがたいことに  
何不自由なく私立大学に行かせてくれたので、  
(高校までは公立でしたが)

子育てにそんなにお金がかかると知らなかった  
世間知らずの私はショックを受けます。

これはマズイと気付いた結婚直前、

私は、さまざまな「お金に関する本」を読み漁り始めます。

その時出会ったのが、  
世界的ベストセラー

「金持ち父さん貧乏父さん」（ロバート・キヨサキ著）。

この本を読んで

「自分の代わりに資産に働いてもらう」

という考えを知り、

サラリーマンマインドしか持たない私の「お金の価値観」が大きく変わりました。

自分が働き続けなければいけない状況とは、  
「ラットレース」から抜け出せないということ・・・。

金持ち父さん貧乏父さんでは、

「働き方」を4つに分類している事も、この時知りました。

キャッシュフロー・クワドラントと呼ばれます。

- ・ビジネスオーナー
- ・投資家
- ・自営業者
- ・従業員

お金に対して圧倒的に自由を獲得できるのは、

明らかに、従業員ではありませんでした。

でも私は従業員という働き方しか経験したことがなかったし、  
ビジネスオーナーや投資家なんて、違う世界の話だと思っていました。

でもこの本をキッカケに、  
投資や起業などに興味を持つことになります。

会社員生活のかたわら、

オタク全盛期から大好きだった  
「小説」「サイト作り」  
の延長で、

アメブロやワードプレスでブログを書き始めていました。

このときは趣味だったので、  
ほとんど日記のような内容のブログを公開していただけです。

ですが、  
しばらく継続しているうちに固定の読者様がついてくださるようになり、  
試しにワードプレスに広告を貼って運営を続けたところ、

なんと1ヶ月に1万円弱の副収入を得られるようになりました。

もしかすると、ブログが仕事になるかも・・・？

と思い始めたのが、このときです。

私は、その後、

2つの運命的な出会いを果たして、

私の幼少期からの呪いであった

「ブサイクコンプレックス」と

「コミュ障コンプレックス」

を両方解消し、

自分で事業をするという、

今の仕事を実現できるようになります。

2つとも、奇跡と呼べるような出会いでした。

幼少期からずっと憧れていた芸能界に挫折し、

うつ一步手前で会社員も続けられなそうだった私を

その出会いは救い出してくれました。

私の人生での大きな出会いのうちの1つ。

その出会いとは、

ある経営者さんとの出会いでした。

直接的に私の人生を大きく変えました。

それは2016年の10月でした。

その出会いは、

私に起業家としての道を切り拓いてくれることになります。

当時の私は、精神科通いで、  
仕事を休職中の鬱々とした会社員。

私の師匠でもある起業家さんの  
当時の月収は数百万円。

その出会いで、私の価値観は完全に崩壊しました。

月収数百万円？

なにか悪いことでもしてるんじゃないだろうか、

というような、信じられない金額を稼いでいる目の前の人は、

とても誠実で、真摯で、優しい人で、  
私と2つくらいしか歳も変わらないお兄さんでした。

正直、意味がわからないと思いました。

と同時に、

無知の恐ろしさを知りました。

知っているか知らないか。

そして、

「それを学べる環境にいるか？」

それで全てが変わってくるのです。

ちょうど、もうすぐ子どもが欲しいというタイミングで、  
産後の働き方に悩んでいた時期でもありました。

自分が精神的に病んでいる以前に、

会社の子育て中のワーママは、  
時短勤務で本当に大変そうで・・・。

結局、私は休職から一度は会社に復帰したものの、  
その後、待望の第一子を妊娠。

眼の前にあった  
育休や産休という選択肢を捨て、

潔く会社は辞めて起業の道を選びました。

会社を辞めてからは、  
出産までになんとか収入基盤をつくろうと、

妊娠中にも関わらず躍起になって仕事をしました。

最初に始めたのは  
趣味ブログを進化させる「サイトアフィリエイト」の仕事です。

もともとサイトを作ること、  
文章を書くことは大好きだったので、  
1日10時間くらいパソコンに向かいつつ、  
3ヶ月で300記事書く（1記事1500～3000文字くらい）  
という目標を掲げて、

師匠の教えを受けたり、企業のセミナーに通ったりしながら、  
必死でサイトを作りました。

もちろんすぐに収益が上がるわけもなく、

会社員時代の副収入から1万円も増えないまま、

「こんなにやってるのに全然稼げない・・・」

という、つらい日々が続きます。

そして時は過ぎ、出産。

出産直後は慣れない育児に奮闘し、  
あっという間にさらに数ヶ月が経ちましたが、

なんと産後放置している間に、  
サイトからの収入がみるみる上がり始めたのです。

妊娠中に頑張った成果が、数ヶ月のタイムラグを経て現れ始めました。

ブログで稼ぐ仕事、サイトアフィリエイトは性質上、  
二次曲線的に収入が上がっていくケースが多いのです。

私も典型的なそのグラフに乗っていました。

このときは、ついに希望の光が見えた気がして、  
本当に嬉しかったです！

その後、

会社を辞めて約1年経った月に、  
遂にPC一台で、会社員の月給並みの収入水準に達しました。

28歳にして、

自由な時間と  
「自己表現」が叶うクリエイティブな仕事、

愛する夫と愛する娘との穏やかな時間、

という最高の毎日を得ることができました。

そして、とても豊かで、  
お客様への価値提供が素晴らしい、  
魅力的な経営者とたくさん会うことができるようになりました。

サラリーマンとして働いている方にも  
素敵な方はたくさんいますが、

起業家であり続ける、  
大きな収入を維持し続けるということは

「価値を提供し続ける」ということですから、

長く自分で事業をされている方は、  
素晴らしい方ばかりだなあとしみじみ感じます。

その後、アフィリエイトというフィールドから飛び出して  
Webマーケティング全般や  
後を書く脳科学などを、  
偉大な経営者からどんどん学んできました。

私が個人で収入を得られるようになったのは、  
ひとえに、学べる環境が良かったからだと思います。

私は幸運にも、成功者の教えに基づいて、  
技術やビジネスの原理を学ぶことができたのです。

具体的に

今の私が何から収入を得ているかというと、  
ブログサイトやメールマガジン、SNSなどを活用した情報発信です。

私は労働時間に比例せず、365日ずっと収入があります。  
もちろん、最初はゼロでした。

大好きな家族や仲間と好きなものを食べている間にも、  
なんなら私が寝ている間にも、

私の代わりに、  
インターネット上にコツコツ築いた資産が、  
価値を人々に提供して収入を生みだしてくれています。

基本的に家が好きなので、

家にいる時間が長いのですが

仕事には場所の制約が全く無いので、

時によっては、週1ペースで新幹線に乗って、

プライベートや仕事（セミナー開催や勉強会）で、  
全国を飛び回っています。

先日、日帰りで栃木に行った時は、  
夫へのお土産に、宇都宮餃子を買って帰ってきました。

どこでも仕事ができるって、本当に楽しいです。

私はWebエンジニアという仕事をしていたが、  
今の仕事にプログラミングは必要ありません。

同業の方々も、  
プログラミングが出来る人のほうが圧倒的に少ないです。

メールが使えて、ワードが使えればなんの問題もないくらいです。  
どんな人でもメールくらいは使ったことがありますよね。

他のツールは  
少しずつ覚えていけばいいのです。

そして最後に、

私にとってもう1つの運命的な出会いも、

ちょうど会社を辞めて少ししたころに起こります。

私はその人と出会って、

【脳科学】を身につけることとなりました。

マインド改革とか言ったりもしますが、  
私は脳科学という言葉のほうが好きで、しっくりきます。

脳の仕組みや扱い方を  
徹底的に学び実践したことで、

幼少期からあれだけ根強かった

「私はブスだから・・・」

「私はコミュ障だから・・・」

という、

2つのコンプレックスを解消するに至るのです。

一番最初に書きましたが、

私たち人間は、

自分の【脳】を上手に使って

自分で自分を愛して、

結果や収入にとらわれず、どんな自分にも花マルを出し、

【自分に絶対的な自信を持つ】

強固な自分軸がないと

すべてが上手くいかない

可能性が高いです。

私の場合、自己表現が好きという

幼いころからの熱意がありながら、

同時に「私はブスだから」という、

自分の勝手な評価で、夢をいくつも諦めてきました。

また、

勉強ができることや数少ない友人関係などを妬まれ

「さやちゃんはなんでも持ってていいよね～」

「あいつ痛いよね。キモい」

「素敵な○○ちゃんにすり寄ってて、ウザい」

「私の悪口言ってるでしょ？」（※言ってません）

と心を抉られるような発言を

中学校から社会人に至るまで  
度々受けて、いつも傷ついて、泣いて、

友人関係にずっとコンプレックスを持ってきました。

コスプレイヤー時代や、芸能時代、  
この仕事を始めてからも、

誰でも見られるネット上の匿名掲示板で、  
名指しで悪口や、ありもしないことを書かれたりすることもありました。

「写真加工しすぎのブス」

「さやって最近太ったよね」

「あいつは痛い。キモい」

外見に関する悪口も、  
発信に関する誹謗中傷もガンガン書かれました。

そう、

「誰かを傷つけたくて、書いているブログじゃないのに」

「私はブスで、デブなんだよね」

いつも、泣いていました。

誰かもわからない人に、攻撃されることが  
怖くてたまりませんでした。

有名人でもないのに、外を歩くことすら怖かったこともあります。

拳句の果てに、

見ず知らずの人だけでなく、  
私のブログを見たリアルな友だちから、

超攻撃的なLINEがきたこともあって、

その時は2,3週間はショックで立ち直れず、  
毎晩お風呂でシャワーを浴びながら、泣き続けました。

私は「人に嫌われること」を  
極度に恐れるようになりました。

後に、会社でもやりたくない仕事にNOといえず  
精神病になり、

果ては会社をドロップ・アウト。

こんな私を、私に脳科学、  
すなわち「感情の取り扱い方」を教えてくれた師匠は、

まるで優しい母のように受け止めてくれました。

「さやちゃんは本当に可愛いよ」

「美しさっていうのは、表情。取り繕った笑顔はお人形と同じだからね」

「妬まれる、じゃなくて『影響を与えられる人』ってこと。  
さやちゃんは人の目を引く、素晴らしい才能をもってる。  
どんどん自分らしく、幸せだって発信していけばいいんだよ」

「何か言ってる人がいるかもしれないけど、みんな色々だから。」

でもね、私は、本当のさやちゃんを知ってるから^^」

やさしい師匠の元で私は、何度も何度も泣きました。

私はずっと人が怖かった。

だから、こんなふうには勇気づけて、  
自信をもたせてくれることが、本当に嬉しかった。

そんなふうには1つ1つ、  
過去のトラウマや悲しかった出来事への捉え方を変えて、

捉え方を変える為の  
脳の使い方を学び、実践し

傷を癒やして、未来に進めるようになりました。

「過去は変えられない」とよく言いますが、

「過去に対する捉え方」や

「過去の出来事に対する意味付け」は

いつだって変えることができます。

でも、あまりに辛い出来事が多かったから、  
一人で向き合うことはできなかった。

ずっと目を背けてきた。

でも師匠は、1年近くかけて、

私が「じぶんでじぶんの幸せを創り出せる、絶対的な自信」を持てるよう、伴走してくれました。

もしかすると、

自分で事業を起こすという挑戦や、

人から学ぶことを

「めんどくさい」と思う方もいるかも知れません。

本当にできるのか？と疑って、

行動できない人が多いかもしれません。

私も、尊敬する師匠たちに出会うまで、

人生を変える決断なんてできませんでした。

でも、少しめんどくさいことをやらないことによって、

後々もっともっとめんどくさいことになっているのが

世の中の大半だと思います。

ほとんどの人が「めんどくさくて」自分で事業や仕組みを作らないから、

労働者から抜け出せないのです。

自信がない自分から、

変わることができないまま

虚勢や高くなり続けるプライドと共に、歳を重ねるのです。

私は、新しい世界入るための投資は惜しまないようにしています。

それは情報に投資する場合もあるし、  
ツールに投資する場合があります。

現在進行系で、いろんなものに投資しまくっています。

- \* 脳科学を学ぶのに30万円
- \* 講師業のために40万円
- \* SEOやアフィリエイトを学ぶために15万円
- \* Webマーケティングを学ぶために40万円
- \* ビジネスモデルを学ぶために50万円
- \* 投資事業の勉強に夫婦で50万円
- \* 事業の個別コンサルティングに160万円

これらは、私が複数の事業について、  
過去3年ほどで投資してきた学びの額です。

年間100万円以上、従業員を脱すると決意してから  
累計400万円以上は学びに投資しています。

こうして今でもセミナーに行ったり、  
コンサルを受けたりして思うのは、

「ショートカットは大事」だということです。

「独学」は、とても遠回りです。

昔は、独学が美德とすら思っていたが、  
一人でもがくのは、時間がかかるし苦しいです。

尊敬するプロから学ぶことで、正しい道筋を教えてもらい、  
夢へショートカットすることができます。

やっぱりプロから指導を受けると、  
圧倒的に早く成長できるので、どんどん楽しくなります。

私は、  
会社員時代は貯金が趣味で、

毎月コツコツ積み重なる貯金通帳を眺めて幸せを感じていましたが、

通帳を眺めても、  
自分の能力や世界観は、何も変わりませんでした。

一方、  
師匠からの教えや新しい出会いに投資することで、

新しい価値観を知ることができ、  
少しずつ人生は変わっていきました。

私はお金とは

「しあわせと交換できるチケット」

だと思っています。

自己投資の話もそうですが

お金を使って、  
時間を短縮したり快適な環境を過ごせるならば、  
私は喜んで使おうと思えるようになりました。

そこでケチっている間に、  
収入を増やすためのスキルを身に着けたり、  
勉強し続ける方が、

後々自分も、自分の周りの大切な人までも、  
豊かになることがわかっているからです。

私はかつては見えなかった世界を  
今はたくさん見ることができています。

学べば学ぶほど、時間的なゆとりが増えていき、  
少しずつ収入も伸びていきます。

何よりも、関わる人が変わりました。

一生涯に使い切れないくらいのお金を  
既に手にしている人たちと会う機会もあります。

よくいう

「周りの人間5人の平均年収が自分の収入になる」

とはリアルだなあと感じています。

今回のこの文章では、  
私が、偽りの自信しか持たず  
多くの夢や希望を諦めてきた話から、

経営者の師匠と出会って、

お金や労働に対する価値観が崩壊し、  
脳科学やWebマーケティングについて学び、

「おしゃれで自由な女性らしい働き方」実現し、

大切な家族と仲間と毎日楽しく  
生きることができるようになった話をしてきました。

人は、自分とは異なる価値観の人間と会わないと、

自分の殻から抜け出すことができません。

私は運良く、そんな自分とは全く違う価値観の  
2人の師匠と会うことができました。

信頼できる先生を見つけ、  
正しいやり方で自分を変えるというのは、難しいけれどすごく大切なことです。

私が再三お伝えしている、

結果や収入、容姿にとらわれず  
「無条件に自分を愛する、認める」というのは、  
思っている以上に難しいことです。

私たち日本人は、幼い頃から

「勉強できる子がいいこ」  
「進学校や大企業に就職したら安心」  
「高収入な人が勝ち組」  
「美人は得」

という価値観を植え付けられて生きてきます。

でも、そんな価値観を取っ払って、

自分の弱さも駄目なところも認めて、  
言い訳するのもやめて、

どんな自分もありのまま愛する。

条件付きではなく、無条件の愛を自分に注ぐ。

これは本当に難しいことです。

でも、これは正しく脳科学や「感情」について学ぶことで解決することが出来ます。

幸い、私はエベレスト並みに高いプライドと共に生きてきた、言い訳だらけの人生を止めることができました。

まだまだ至らないこともあります。

ですが、20代にしてこの考え方を身にすることが出来たのは、「幸運」に他なりません。

言い訳を重ねていき、  
「偽りの自信」を持ち続けたいなら

ろくな人生は歩めなかったと思います。

どんな自分も認めて、愛して、夢に向かって行動する。

そうやって夢はかなっていく。

どんな夢だっていいんです。

お金が欲しい。  
会社に行きたくない。  
ブランド服やバッグが欲しい。  
おしゃれなアフタヌーンティーがしたい。  
海外旅行にいきたい。  
最高の結婚生活を送りたい。

どんな夢にも、素直になっていいんです。  
そのために努力すればいいのだと思います。

ただし、正しいルートで努力を進めるために、自己投資は必要です。  
信じられる先生を見つけて、お金も時間も投資するんです。

最初は独りよがりと思われるような夢でも、  
叶え続けていけば、  
自分を満たし続けていけば、

いつかその自己愛は溢れて、  
必ず他者をも愛せるようになります。

自分の大切な人に、  
もっと愛を注げるようになります。

これは絶対です。

だから自己中とか、わがままとか

そんなふうになり下す前に、  
自分を愛しきらないといけません。

自分にすら注げない愛を、他人に注げることはないんです。

人生は、知識と経験で変わります。

知識とは、学校の勉強ではありません。

今、私がお伝えしているような  
女性のための脳科学や、Webマーケティングも知識です。

働き方についての知識もそうです。

私は会社員時代、

収入を増やすには出世するか、  
転職するしか無いと思っていました。

ですが個人で起業し、  
お金だけでなく、圧倒的な時間の自由も手に入れることができました。

こういった働き方を、  
ほとんどの人がいまだに知りません。

いや、知っていたとしてもやっていません。

わたしも昔は、

汗水たらして一生懸命、長時間働き、  
苦手なことも克服するのが仕事だと信じていました。

だからこそ、毎日泣きながらも、  
うつ病直前まで、自分なりに頑張ったりもしました。

でも、そうやって自分が苦しみながら働いていると、

楽しみながら働いている人に嫉妬したり、

楽しむこと自体に罪悪感を持つようになります。

改めて

「わたしは運が良かったなあ」

と思います。

価値観を変えてくれる師匠に出会えたからです。

もし知らなければ、  
うつ病一歩手前で会社をドロップ・アウトしたあと、  
専業主婦として節約に勤しむ日々を送っていたと思います。

そして一生、  
必死に「偽りの自信」をつけ、  
エベレスト並みに高いプライドを立てて、  
収入や結果で人を判断してマウンティングして、悲しい人生を送っていたかもしれません。

私はずっと「偽りの自信」と  
プライドと共に生きていました。

でも今の私は、昔よりずっと柔軟で、

自分でいうのもなんですが、

人に優しく、  
愛する家族や友人と、  
毎日笑顔いっぱい過ごせるようになりました。

それは、どんな自分も愛せるようになったからです。

収入や結果は関係ありません。

寝坊した日も、仕事を1ミリもしていない日も、  
私は私を、誰よりも愛し、認めてあげることができます。

そして自分を愛せる人は、  
人を愛することができます。  
人を信じることができます。

正直な話、私は

「日本の女性の働き方を変えたい！」

とか、大それた野望はありません。

変化を望んでもいない人様の人生に口出しするのはエゴだと思います。

ただ私は、

過去の私のように

自分を愛することができず、  
プライドばかり高く、  
人の目を気にしてばかりいる、

でも変わりたい

そんな女性に向けて、  
お伝えできるヒントがあるかなと思って、今この文章を書いています。

じゃなきゃ、わざわざこんな長文で  
ブスだコミュ障だと何度も書きません（笑）。

こんな私でも  
師匠に出会って、学び、行動して

人生を変えることができました。

この話が、誰かの勇気になれば本当に嬉しいです。

人生における豊かさとは  
お金だけではなく「選択肢の多さ」です。

どんな選択肢も選び取れるためには、  
強固な自分軸を持ち、自信を持つことが必要です。

もし

既に起業されていたり、  
副業に挑戦されているけれども、

「ノウハウばかり求めて成果があまり出ていない」

という場合は、

まずは

「結果や収入に関わりなく、自分に自信があるか」

「人目ばかり気にしていないか」

「どんな自分でも無条件に愛せているか」

ぜひ自分の心に尋ねてみてください。

ここまで読んでくださったあなたには、心から感謝しています。

こんな超長い文章を読んでくださって  
本当に本当に嬉しいです。

今回は、私の正直な思いを書き連ねました。

あたりまえですが、  
この話は全部わたしの29年間の実話です。

正直、書くのやめておこうかなとおもうエピソードもありました。

向き合いたくない過去、  
かつては消し去りたい過去だと思っていたものすらあります。

でも、いまは  
人生のすべての出来事に感謝しているし、

すべての出来事を  
未来への力にできる自信ができたので、

感情のままに書いてみました。

この話を読んだ方が、

昔の私のように

「偽りの自信」「高くなり続けるプライド」

を捨てて、

ありのままの自分を愛せるようになり、  
自分の「感情」に嘘をつかないで生きてもらえることを

心から願っています。

改めて、ここまで読んでくださり、ありがとうございました。

ご感想はいつでもお待ちしております。

今後のセミナー情報など、  
直接お会いできる機会についても、

メルマガでクローズド、  
ないしは先行でお届けしていきます。

無料ですのでぜひ登録してみてください^^

心からの感謝を込めて。

2019年3月 兵藤 さや

私のメールマガジンは下記リンクから登録できます。

<https://my30p.com/p/r/qWNYIBc5>